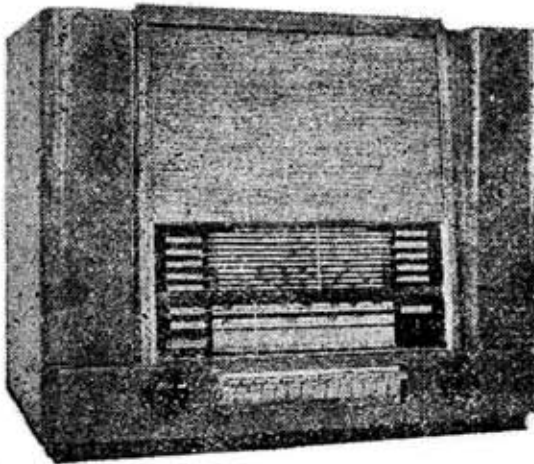


第 92 図 5 球スーパー 3 号受信機 ZS-1130 型  
キャビネット 400×205×240 mm. 使用真空管  
6WC5, UZ-6D6, 6Z-DH3 A, UZ-42, KX-12 F.  
拡声器 61/2<sup>吋</sup> パーマネント・ダイナミック。

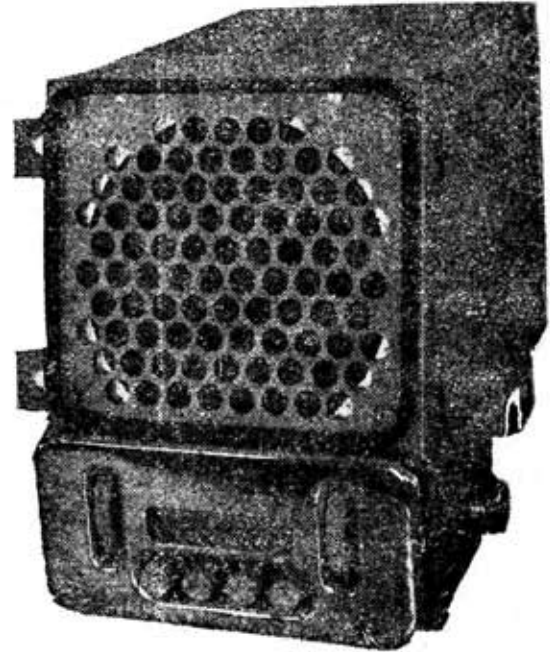


第 93 図 8 球全波受信機 ZS-1127 型 スプレッド  
バンド同調付。キャビネット 490×600×350  
mm. 使用真空管 12GR6, 12GC5, 12GR6, 12GDH3  
×2, UZ-42×2, KX-80. 拡声器 8<sup>吋</sup> パーマネント  
ダイナミック。

段はスプレッドバンド用、下段は主同調用である。向って右側のつまみは 2 本の軸が同軸に組込まれていて、一つは主バリコンおよび主同調口蓋を動作させるもので、他の一つはコイルの一部に入れたダストコアを動かして、スプレッドバンド同調をとるようにしてある。なお短波の 13 の放送帯はキャビネットの下の押ボタンでどれでも自由に選択できるようになっていて、そのおのおの、放送帯の中で上記のスプレッドバンド同調を行うようにしてある。向って左側のつまみはやはり同軸の二重動作になっていて、それぞれ音量、音質調整用である。なお前に述べた短波の放送帯を選ぶ押ボタンの他に、中波の放送帯の中で 3 局までは押ボタン同調もできるようになっている。使用真空管中 12GDH3 の 1 本は DAVC およびノイズリミットに使用している。

自動車用ラジオ (第 94 図) は小型乗用車の計器盤に

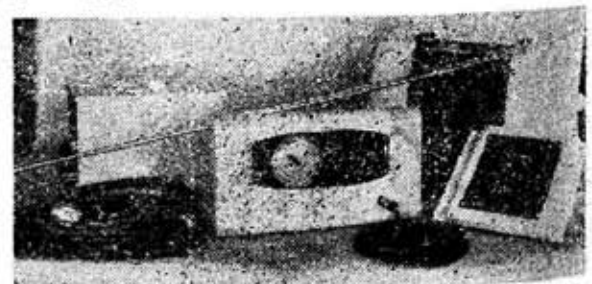
組込むのに便利のように設計されている。4 個の押ボタンによってバリコンを廻して同調をとるようになっていて、この部分だけが自動車計器盤の上に出て、他はそ



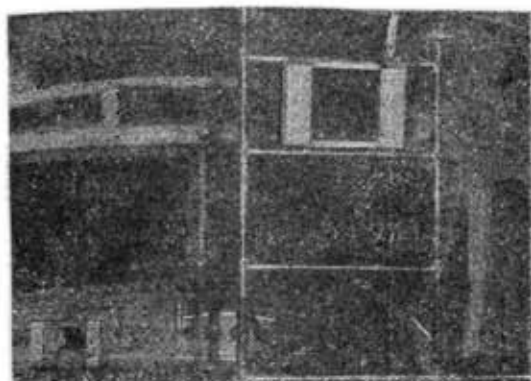
第 94 図 自動車用ラジオ ZS-1107 型 セット  
180×277×185 mm 重量 9 kg 使用真空管 UZ-  
6D6, 6WC5, UZ-6D6, 6ZDH3 A, UZ-42 拡声  
器 61/2<sup>吋</sup> パーマネント・ダイナミック。

の背後に組込まれる。電源は自動車の 6 V 蓄電池からとって、B 電源はシンクロナス型のバイブレータから得られる。各地での走行試験の結果はかなり良好で、1.6 m の釣竿型のアンテナを張って市街地、郊外、山地等でも充分な音量を楽しめる。

バスラジオ ZS-1105 B 型はバス用に設計されたもので、セットは受信機本体と電源部とに分かれ、後者はバイブレータによって B 電源を出している (第 95 図)、(第 96 図)。

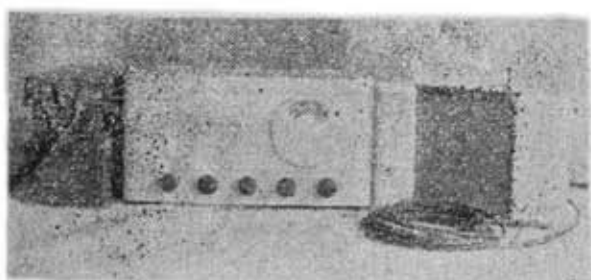


第 95 図 バスラジオ ZS-1105B 型の一式 6 V  
用と 24 V 用とあり、外観は全く同じ。使用真空管  
6 V 用は 6SK7, 6GC5, 6SK7, 6SQ7, 6V6 のい  
ずれも GT 管。24 V 用は 12GR6, 12GC5, 12GR6  
12GDH3, 6V6 のいずれも GT 管。拡声器は 61/2<sup>吋</sup>  
パーマネント・ダイナミック 72 個。本体、スピー  
カの他に電源、アンテナ、ハンドマイクを附属。



第96図 24B3型バスラジオ ZS-1105B型をバスの計器盤に取付けたところ。拡声器はバス車内の前と後に取付けるのが原則で、なおカーボンのハンドマイクロフォンがついていて、車内でアナウンスすることもできる。

電池式6球全波受信機 ZS-1143型(第97図)は特に輸出見本として試作された6V蓄電池から動作するセットで、全金属のスマートな外箱に入っており、殊に耐熱、耐湿構造に意を用いてある。電源はパイプレータで、電源入力6V7Aである。手頃な大きさであるし、南方諸地域の電源のないところでラジオ放送を部落の1個所で、多数の人が聞こうというには非常に便利である。



第97図 電池式6球全波受信機 ZS-1143型セット 238×450×225mm. 使用真空管 6WC5, UZ-5D6×2, 6ZDH3A, UZ-42, 6X5GT. 拡声器外附の3バンド受信機。つまみは左から順に電源スイッチ、音量、主同調、微調、バンドスイッチとなっている。

#### 54. テレビジョン 621.397.5

戦災によって装置の大半を焼失し、わずかに残った携帯型端局装置1組を再出発の土台として復興に努力した当社のテレビジョンは、昭和23年9月に朝日新聞社で戦後最初の公開実験を行って以来、逐次その内容を充実し、同年10月大阪復興博覧会、昭和24年4月松山博覧会、長野平和博覧会、5月観光高松博覧会、8月新庄市制記念博覧会、9月北海道旭川および札幌両市に

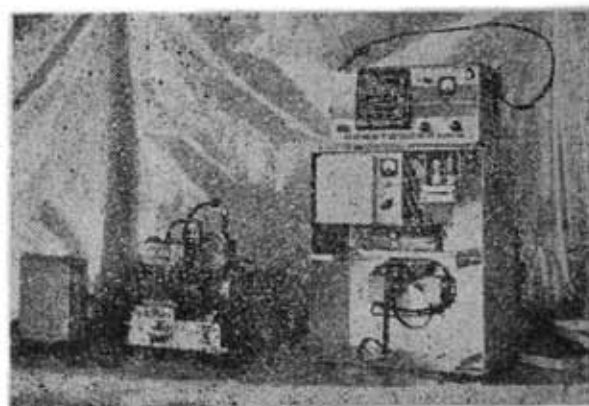
おける展示会等に出品して世人の関心を集めた。同年11月東京三越において開催された東芝電気科学展には、2台のアイコノスコープ・カメラを使用してや、本格的な演出を行った(第98図)。



第98図 東芝電気科学展の折に記録した交像写真の一例で、新製品電気かみそり器による顔そりの実演。

#### 55. 携帯用無線機 621.396.73

甲種携帯用災害無線機 TA-1204型は国有鉄道の要求によって製作したもので、使用真空管はいずれもGT管で6V6, 6SJ7, 6GC5, 6SJ7, 6SQ7, 6V6となっている。アンテナは高さ6m、水平部10mの逆L、これに10mのカウントポイズをつけ、いずれもセットの中に收容して運搬できる。つまみは送受切換えと受信音量調整、送信のアンテナ同調だけで、極力取扱いを簡単にしてある。野外試験の結果では平地で30km、山地で15km以内で安定に通話できた。鉄道以外でもこのようなセットの要求はかなりあると思う(第99図)。



第99図 甲種携帯用災害無線機 TA-1204型 小型の発動発電機を電源として動作する2.8Mcのトランシーバで、全体を1人で運搬できるように極力小型軽量に組まれている。全体の重量は10時間分のガソリンを入れて約30kgである。